

令和元年度 第1回新宿区子ども・子育て会議 会議要点記録

日時	令和元年7月2日（火）午前10時15分から午後0時04分まで
開催場所	新宿区役所6階第二委員会室
出席者 （名簿順）	高橋貴志委員、宮崎豊委員、小原敏郎委員、大貫奈美子委員、越智創委員、加藤健委員、竹内久美子委員、米山厚司委員、青野啓子委員、千葉伸也委員、角由紀実委員、青山章子委員、小原聖子委員
欠席者	古川ワカ委員
開催形態	公開（傍聴者1名）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 区長挨拶 3 委員委嘱 4 委員自己紹介・区職員紹介 5 会長・副会長選任 6 新宿区子ども・子育て会議について 7 新宿区子ども・子育て支援事業計画について 8 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新規開設の保育施設について (2) (仮称)新宿区子ども・子育て支援事業計画(第二期)について 9 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 待機児童解消に向けた取り組みについて (2) 学童クラブ及び機能拡充放課後子どもひろばの登録状況について 10 その他 11 閉会

1 開会

2 区長挨拶

吉住区長より、挨拶を行った。

3 委員委嘱

吉住区長より、各委員に対し委嘱状を手交した。

4 委員自己紹介・区職員紹介

各委員がそれぞれ自己紹介を行い、事務局より区職員の紹介を行った。

5 会長・副会長選任

新宿区子ども・子育て会議条例（以下「条例」という）第5条第2項に基づき、委員の互選により会長が高橋委員に決定し、高橋会長が副会長に宮崎委員を指名した。

6 新宿区子ども・子育て会議について

7 新宿区子ども・子育て支援事業計画について

事務局 資料2・3・4・5・6及び計画書に基づき説明

委員A 保育の必要な量の見込みの(3)のところで、「直近の実績と人口推計を踏まえて」というところをもう少しかみ砕いて教えていただきたい。全国的な傾向にならっているのか、新宿ならではの傾向を加味しているのか、というところを知りたい。

事務局 ニーズ量については、3つの地域区分の人口動態に基づいて算出している。したがって、区内のそれぞれの地域の状況を反映したものとご理解いただければと思う。

5年前に保護者の皆様にアンケート調査をしており、そのアンケート調査の状況に基づいて、一定の伸び率を掛けている。そういう意味では、これも区内の状況といえ区内の状況ではあるが、社会的な状況というところも反映していると思っている。

今年度策定する次期計画については、30年度に、5年前と同様の調査を実施した。今回は、無償化についてはさらに詳細が決まっているので、アンケート調査にもその項目を入れ込んでいる。この調査結果に基づいて、伸び率等を考えて量の見込みを算定していく予定である。

委員A 人口がこのぐらい増えたから保育の需要もこのぐらい増えるという、人口に対するニーズの割合について、全国一律の数値で考えているのか。あるいは区独自に算出しているのか。

事務局 先ほど説明したとおり、あくまでも新宿区のそれぞれの地域ごとのニーズ率を使用している。このニーズ率については、それぞれの地域での乳幼児人口に対する保育認定をされた人数の割合で設定をしている。

委員B 子ども・子育て会議では、基本的にはこういったニーズ調査とか、それに対応する施設の整備について主な議題となっている。それは専門家が、わかる方がやればいい話で、むしろこういった会議の場では、現場の先生方や学識経験者の先生方がいる中で、どのようにしたら子どもたちの生きる力を育てていけるのかということに踏み込んでいくべきである。三期目を迎えるこの会議が、このままそこに踏み込んでいけないのだとすると、ちょっと残念だと感じる。

事務局 まず、法律と条例に基づいた役割がある。その中に、新しい施設ができたときの定員設定に関することや、子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し必要な事項について意見を聴取するということがある。ただし、そのほかにも、各委員の立場から、子育て支援に関し自由にご意見をいただく時間も設けている。今の委員の意見を踏まえ、今後の会議の進め方についてさらに検討を進めたいと思う

会長 最初の質問に関しては、基本的な考え方として、やはり新宿区の特徴、新宿区の実態というものを中心に考えていくというのが明らかになった。それから、委員Bの質問に関しては、子ども・子育て会議の基本姿勢にかかわるところだと思うので、今、事務局から説明があったように、この会議の視野の外に置いているわけではないので、常に頭のどこかに入れながら、進めていくことはとても大事なことだろう。

8 議題

(1) 新規開設の保育施設について

事務局 資料7に基づき説明

委員C 整備理由として、戸塚第一幼稚園舎を返還するという事を挙げているが、これはまた幼稚園が復活するという事なのか。

事務局 戸塚第一幼稚園については、園児が定員数に満たないため休園している。その休園舎を利用して、保育ルーム早稲田の仮施設として利用していた。返還後の用途はまだ決まっていない。教育活動で利用するのであれば、例えば特別教室や、実際、2階の部分はプラスバンドが練習などに使用している状況なので、そういった活用になる。もしくは区の判断により教育活動に使用しないということが決まれば、その他の目的で使用する可能性もあるが、現在は固まっていない。

委員D この議題というのは、この新しく開設する保育園を承認するか、しないかという話なのか。

事務局 保育園の設置の可否そのものではなく、先ほど説明もあったが、定員の設定について、このような状況でおおむねよいかどうかという意見をいただくところである。

事務局 新規開設の過程で、区が確認という行為をしていくに際して、利用定員の設定に関して、この子ども・子育て会議の中でご意見を伺うということが法定されているので、このように議題として提案している。その利用定員について何を意見として述べればいいのかという点について、想定されることとしては、定員を確保していかななくてはいけないときに、居室面積をきちんととれるのに定員を絞り過ぎていないか、あるいは、ニーズをかなり超過して定員設定がされているのではないかと、といったことが考えられる。

現状としては、新宿区の平成31年4月1日の待機児童数は2名ということになったが、幼児教育無償化の影響や、大規模開発はまだまだ続くので、そうした推移も見据えながら、整備の手を緩めることはできないという認識である。

そうした中、基本的にはこの事業者から提案のあった物件については、できる限り保育室の居室面積をとれるように事業者も設計しているし、区としても、必要な定員数が確保できるように確認をしている状況である。したがって、この利用定員に関して意見を述べていただくということについては、委員の皆様にとってはなかなか難しいところがあるかと思うが、そのことだけにとらわれず、ご意見、ご質問などをいただければと考えている。

委員D 人数とか利用定員に関しては、もちろん育児中の私たちとしては人数が多いほうがいい。私は区境に住んでいて、児童館でも、隣区のお母さんたちに会うことが多いが、隣区と比べてしまうと、新宿区は保育園に入れないというお母さんが多い。隣の区は仕事が決まっていなくても、新設の保育園に入った友人が多い。

利用定員に関して多いとか、少ないとか、私が意見をするのは難しいのだが、その中で気になったのは、建物の2階、3階を使うということだが、1階は何か。母親たちは安全面や、登園するときに、自転車が置けるかとか、そういったことを考えると思う。

事務局 1階はコンビニエンスストアの予定である。一方で、委員が心配している安全、安心については、コンビニの方からは園には入れないような仕様になっている。出入り口は2カ所あるが、いずれも、園の職員が解錠するような形になる予定である。もう一つ、駐輪場の質問があったが、駐輪場についても、一定数を確保する予定で設計等をしているところである。

委員 C 新宿区で待機児童の問題、お母さんたちの本当に切実な声があるというのは、私も現場で見てきた。もちろん安全面のために認可の基準が必要ではあるが、少しでも多くの子どもたちが保育園に通えるようになったらというのが基本的なスタンスなので、ぜひ進めていただきたいと思う。

先ほど委員 B がおっしゃったように、やはり量だけではなくて、質の面もどうしても必要になってくると思うのだが、保育室がゼロ歳児室から 5 歳児室まで確保されているとのことだが、全体で集まって行事などをやるような場所はないということなのか。

会長 今の質問は、いわゆる代替園庭とは別にという話でよいか。

委員 C はい。例えば発表会とかができるような、ちょっと大きなプレイルームというのがあろうと思うのだが、そういった部屋があるかどうかということ。なければないで工夫すればいいと思うが。

事務局 予定している設計の図面を確認したところ、それぞれの歳児ごとの部屋の予定になっている。ただ、3 階部分が 2 歳から 5 歳のそれぞれの園児の部屋だが、3 歳、4 歳、5 歳については、壁で区切られているような状況ではないので、委員のご質問の中にあつたとおり、少し工夫をする余地はあるのかなというふうに思っている。

委員 C そういう視点が入っていればよい。

委員 E 定員について、資料を見た中で、現状から考えてみると、実は新宿区、待機児童が少ないと先ほど言っていたが、私は年長と 1 歳クラスの子どもがいて、何年も入園申請をしているが、ゼロ歳と 1 歳と 2 歳は非常に入りづらい。3、4、5 歳はほとんど好きなどころに入れるという状況である。特にゼロ歳はクラスに 2 学年分いるので、ほとんどの場合入れなくて、保育指数が満点プラス兄弟枠とかがないと、好きな園には入れない。ゼロ歳から 5 歳まで全体で待機児童が少ないというのはあると思うが、保育の応募状況などを見ると、非常にゼロ歳、1 歳は厳しい状況にある。今回、ゼロ歳のクラスはつukらないということであるが、ぜひ次につくる場合には、このゼロ歳、1 歳、2 歳というところに手厚い定員を設定していただけるとよいと思う。

委員 A 私もゼロ歳の定員がないなと思ったが、資料 12 のほうに、今後認可される予定の園のリストが出ていて、6 園のうち、ゼロ歳の定員があるのが 2 園となっていて、1 歳からの保育所を増やすのだなと見た。それで、確かにゼロ歳、1 歳が入れないというお話もある一方で、調査報告書の 26 ページ、育児休業からの復帰時期で、本来は 1 歳前後で復帰したいのに、実際はゼロ歳で復帰している。それはやはりゼロ歳で入れてしまわないと入れないからという現状がある。このずれのところについて、私の個人的な意見としては、1 歳からの園がふえたら、もう少し安心して 1 歳まで休もうかなというインセンティブが働くのではと常々思っていた。そういった方針のもと、区はゼロ歳はつukらなくて、1 歳からの保育所をつくってくれと言っているのか、たまたま事業所がゼロ歳の定員のない園を提案してきたのか。

事務局 歳児ごとの定員数の設定については、先ほど申し上げたとおり、毎年、計画の見直しをしている中で、西北地域におけるゼロ歳児の需要についての受け皿は、一定程度確保できるものと考えている。また、今回、待機児になった 2 名についても、1 歳と 2 歳で、もちろん希望の園に入れるかどうかというのはまた別の問題であると思うが、あくまでも入れるか、入れないかという視点で見たときに、ゼロ歳児は一定の確保ができていると認識している。

したがって、先ほど委員から質問のあったとおり、1歳児園として整備するのも、そのほうがより適切だからであり、ゼロ歳児からの設定をしてしまうと、持ち上がりになってしまっ
て枠があかない、ということが現実的にあるので、1歳児からの園として、私どもも事業
所のほうにお願いをして、このような計画となっている。

事務局 新宿区のホームページの中で、保育園の空き情報を掲載している。現状、ゼロ歳児ク
ラスにかなりの空きが生じている。区としては、ゼロ歳児のニーズは、以前に比べると充足
できてきていると捉えている。ただ、ここ2年ぐらいの傾向なので、断定してしまってい
いか慎重に考えてはいる。

一方では、依然としてゼロ歳児に空きがない園ももちろんある。そういう意味では、園が
だんだん選ばれてきている状況も生じてきているのかなと考えている。あるいは、やはり局
所的には定員が足りていないような場合もあるのかもしれないし、そういったところの詳細
な分析をしながら、適切な場所での整備を進めていかなければならないと考えている。

(2) (仮称)新宿区子ども・子育て支援事業計画(第二期)について

事務局 資料8・9・10に基づき説明

委員A 資料10-2の目標3の3の②で、当初「児童館、放課後子どもひろば等の充実」とな
っているところの児童館が抹消されているのがとても気になった。就学後の子どもたちの遊
び場所が本当にないというのは、小学生以上の親の切実な思いである。児童館も貴重な居場
所の一つだと思っているのだが、そこについて教えてほしい。

事務局 これからの計画策定ではなくて、現在の計画を策定したときの考え方なのだが、児童
館において、例えば中高生の居場所をつくっていかうとか、あとは未就園のお子さんと保護
者の方の居場所ということで、乳幼児の専用のスペースを推進していかうというのが背景に
あった。この間、保育の待機児童対策として、保育園を力強く整備してきた。その結果、就
学後のお子さんの保護機能である学童クラブの需要が非常に高まってきた。例えば児童館の
中に併設されている学童クラブにおいての定員拡充の方策の一つとして、児童館部分の居室
を学童クラブ室に変更していかざるを得ないといったような状況が、今生じてきている。こ
ういった現状を踏まえると、児童館部分に関して、次期の計画で何か機能を強化していくの
かということ、そうではなくて、逆に学童クラブのスペースとして活用していかざるを得ない
といった状況を踏まえて、このたび、この児童館の充実という文を消させていただくという
判断をしたところである。

現下の状況を踏まえてご理解くださいというのもなかなか難しいと思っていて、現在の計
画の期間中、放課後の居場所としては、放課後子どもひろばという学校の中で安全安心に過
ごせる場所を、各区立小学校に協力いただきながら確保している。なので、こちらを今後、
どういうふうにしていくのかといったことを、次期計画の中にもきちんと落とし込んでいく。
児童館というよりもむしろ、新たに放課後子どもひろばを示していきたいと思っ
ているので、ご理解をいただければと思っている。

副会長 児童館の機能を他に転換するというのは現実的にあるのかもしれないが、それだけで
ここをうたってしまうと、やはり区民の方も納得できないことであろうかと思う。一方では、
転換することによって、拡充されていくところもあると思うが、18の施策の目標の1の4、

「子どもから若者までの切れ目ない支援に向けて」というところに、児童館が廃止されていく中でどんなことを展開するのかをうたっていくことができれば、施策に厚みを持たせることができるのではないかと。

事務局 児童館を廃止するという考え方はない。あくまでも建物の中に児童館機能と学童クラブ機能が共存している場合、学童の定員オーバー対策のため、そのフロア部分の軸足を学童クラブのほうをより手厚くというような形で今後進めていく、という考え方なので、児童館をなくすという考え方は、今現在はない。

副会長 目標1の施策の1の③に、「子どものいじめや不登校等の防止の取組み」と書いてあるが、いじめの防止はわかるが、不登校の防止という言い方があるのか。子どもの人権を考えると、非常に慎重に表現をしなければいけないかなと感じるので、不登校を予防するというのはわかるのだが、不登校を防止することになると、不登校になっている子どもが苦しみながらも、今いる状況をどういうふうに語っていくのかなというところで、防止という言い方をいじめと並べてしまっているのかなとちょっと気になった。いじめの防止と不登校の何とかになるのか、その辺をちょっと施策として、子どもの人権というところから少し丁寧に精査していただきたいと思う。

事務局 教育ビジョンの中においては、いじめ、不登校等の防止という表記は使っている。ただ、具体的には、児童生徒の不登校対策ということで、その後、個別の事業を紹介しているので、今回、計画の策定に当たっては、改めて防止という表記がふさわしいかどうかということは子ども家庭部とも連携できたらと思う。

9 報告

(1) 待機児童解消に向けた取り組みについて

事務局 資料11・12に基づき説明

委員A 何年前かに、保育所の定員の数が伸び続けるのを見て、この子どもたちが、このまま学童になっていくので、小学生になってからの居場所についても拡充しなくていいのかと思い、そのときにはまだその計画の中では、余り学童クラブや児童館について手厚く書いていなかった印象だったので、お願いした。なので、学童クラブ機能ももちろんだし、ぜひ児童館も新しく建てるぐらい、本当に居場所がない。それから、放課後子どもひろばと児童館の役割も違うので、そのあたりもよく研究していただいて、よろしくお願ひしたい。

あと保育の質というところでは、園庭のない保育園しか、なかなか認可できる計画ができないのかもしれないが、一部の園に集中している理由には、延長保育があるとかそういったサービスもあるけれども、その次にお母さんたちは、やはり園庭の広いところに行かせたいと言っていた。お散歩の列に車が突っ込む事故もあって、保育士さんたちも本当に現場でも苦勞されているようなので、小学校の校庭とかも含め、区のいろいろな財産を上手に使って、子どもたちの生きる力にもなると思うので、ぜひ考慮していただきたい。

(2) 学童クラブ及び機能拡充放課後子どもひろばの登録状況について

事務局 資料13に基づき説明

委員E 待機児童のことで、私が考えているのと、先ほどの説明がどうしてこんなに違うのか

など思った。私は1歳の子がいるので、1年ぐらい前まで申請を出し続けていたのだが、認可保育所には入れずに、認証保育所には入れたけれども、そうすると、上の子と下の子は別々の保育園に行くことになるので、保護者にとっては、待機児童と何ら変わらない気持ちで申請を出し続ける、通るまで毎月のようにやるということになる。待機児童がほぼいないという状況まで新宿区は来たということはよくわかったので、これからは、先ほど質とおっしゃっていたが、次の段階にぜひ進んで、ただただ保育施設を拡充するというだけではなくて、例えば、皆さんが希望の園に入れるように、何歳は何人とカチッと決めるのではなくて、もう少し大枠でやってみるとか、何かそういうことを考えられるといいかなと思った。

委員C 本当に最善を尽くして、ハード面の拡充をしてくださったのがよくわかって、本当にありがたかった。待機児童が非常に減っているのはまず大きいことだが、見方を変えると新宿区を選んでいない可能性もある。先ほどあった、別の区のほうが入りやすいからそっちで子育てしようかなとか、当然、引っ越しの時に考える方たちもいるだろう。そういう方々もいると思うので、努力されているのは本当にありがたいことではあるが、さらにハード面を拡充させていただければというのが一つ。

もう一つ、私、先ほど小学校の子どもが2人いるとお伝えしたが、やはり学童クラブは、正直、あふれている。それもあって、うちの子どもたちはひろばのほうにいる。ひろばはまだちょっと余裕があって、また、4年生以上も入れることもあって、学年と低学年の子ども、どちらも今、ひろばにいるという状況である。いずれ、学童クラブの子どもが増えてしまったのと同じように、このひろばもまた増えてくるだろうなというところは想定できるので、そういう意味で、委員Aが一つ施設をつくるぐらいとおっしゃっていたのは、現実的にお考えいただける余地があるのかなと思うので、お願いしたい。

10 その他

事務局 次回開催等についての説明

11 閉会